法政大学大原社会問題研究所

所　報

（2000. 4 .1～ 4 .30）

□人事（４月１日付）

異動

専任研究員　岩崎　晋也（現代福祉学部助教授に転出）

専任職員　西村　雅史　主事補（総合情報センター事務部市ヶ谷事務課より転入）

兼担研究員（運営委員）

金子　征史（法学部教授）
森　　廣正（経済学部教授）
萩原　　進（同）
長原　　豊（同）
壽福　眞美（社会学部教授）
公文　　溥（同）
岡野内　正（同）
杉村　　宏（現代福祉学部教授）

兼任研究員　梅田　俊英　　小関　隆志
佐伯　哲朗　　武内砂由美
野村　一夫　　松尾　純子
横関　　至　　吉田　健二

客員研究員　栗田　　健　　鈴木　宏昌
芹沢　壽良

嘱託研究員　武居　秀樹

□刊行物

『大原社会問題研究所雑誌』498号（2000年５月）

『新着図書目録』203号（2000年４月１日発行）

□図書受入

	和　書	洋　書	計
購　入	123	10	133
受　贈	104	―	104
合　計	227	10	237

□閲覧サービス

閲覧
開館日数　24日
閲覧人員　30名
貸出図書　33冊

コピーサービス
学　外　20件　478枚
学　内　14件　899枚

日　誌

５日　『日本労働年鑑』編集会議

12日　『日本労働年鑑』編集会議

13日　OISR-WATCH16号発行

14日　私立大学図書館協会文献探索研究分科会（於：武蔵大学）参加：遊座圭子
萩原晋太郎氏よりアナーキズム関係の図書資料段ボール５箱受贈

15日　加齢過程における福祉研究会
報告者　時田純氏（高齢者総合福祉施設潤生園園長）
テーマ　「老人福祉施設におけるターミナルケアの現状と課題」

19日　第２回OISR会議
2000年度第１回運営委員会
議題①諸報告
②新年度運営委員紹介
③新年度重点事業について
④その他
『日本労働年鑑』編集会議
2000年度歓迎会

26日　研究員会議
月例研究会
報告者　小関　隆志（大原社会問題研究所兼任研究員）
テーマ　「80年代以降の労働者協同組合研究をふりかえる」

大原社会問題研究所雑誌　No.501（2000年8月号）
2000年8月25日発行
定価 1,000円（本体952円），年間購読料12,000円

編集（兼）発行人　法政大学大原社会問題研究所
所長　早川征一郎
〒194-0298 東京都町田市相原町 4342
電話 042（783）2307

投　稿　募　集

本誌は社会問題・労働問題に対する論文，調査報告，書評を広く募集しています。下記の規定に基づいてご投稿下さい。

投　稿　規　定

1．原稿は，ワープロ原稿による未発表のものに限ります。
2．論文の長さについては，400字詰原稿用紙50枚程度が望ましい（図表を含む)。
3．本誌に初めて投稿する場合には，研究歴など簡単な履歴を添付してください。
4．編集委員会で審査のうえ，採否をご連絡します。
5．原稿２部を下記まで送付してください。
　『大原社会問題研究所雑誌』編集委員会

論文執筆要領

論文を執筆される場合には，下記の点に留意してください。
執筆者校正の際には，原則として原稿を返却しませんので，原稿のコピーを確保しておいて下さい。
原稿をプリントアウトする場合には，ある程度の行間を取って下さい。

1　一般的な原則
①　横書きとする。
②　タイトル，氏名の次に簡単な目次をつける。
③　原稿の最後に，執筆者名（ひらがな），肩書き（所属，職名）を記入する。肩書きは大学の場合には，学部，研究所等の名称まで表記する。
④　注をつける場合には，各章ごとに分割せず，最後に一括し，通し番号をつける。
⑤　図，地図などは，可能な限りトレース済のものを提出する。

2　注記の方式
■日本語の図書・論文の場合
A．日本語で書かれた図書については，①著者名，②書名（書名は『　』で囲む)，③出版社名，④発行年（原則として西暦）の順に書く。ページ数を記入する場合には，発行年の次に記入する。
（例）法政大学大原社会問題研究所編『《連合時代》の労働運動』総合労働研究所，1992年，10頁。
B．著者が２人の場合には，両者の姓名を書く。３人以上の場合には，「──他」の方式も可とする。
C．論文については，①執筆者名，②論文名（「　」で囲む)，③掲載雑誌名（『　』で囲む)，④巻号，⑤発行年月日の順に書く。
（例）加藤譲治「ポストモダニズムと労働組合」『大原社会問題研究所雑誌』404号，1992年７月。
D．注の最後は，かならず「。」で止める。
■欧文の図書・論文の場合
A．欧文の図書については，①著者名，②書名，③発行地（あるいは出版社名)，④出版年を書く。書名は，イタリックにするので，下線を引くなどして書名の部分を他の部分と区別する。
B．論文の掲載雑誌名は，イタリックとする。
C．再出を示す「ibid.」「op. cit.」などもイタリックにする。
D．注の最後は，かならず「.」で止める。

以上